

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



『忽那ロマン』を語り始めるとついつい力が入り、時の経つのを忘れてしまう、ガイドの能田氏、重松氏、豊田氏のお三方。今日もガイドマニュアルづくりに精がでます。今後、出来上がるマニュアルで語り部養成に努め、やがては「忽那諸島を歴史ロマンの華やく場所にする」のが3人の目標です。

● 忽那諸島の歴史を
● ガイドマニュアルにまとめる
● 忽那ロマンの語り部を養成する



【要点チェック！】



『忽那ロマン探訪』を謳い、忽那諸島の歴史を新たなまちおこしの指標とした松山離島振興協会では、島々の歴史をガイドマニュアルとしてとりまとめ、その歴史のおもしろみを広く語り伝える語り部の養成を行うべく、平成二十三年度 離島人材育成基金助成事業を活用し、まずは忽那水軍の歴史や、忽那の民に脈々と受け継がれる生活史にふれるクルージングを実施しました。

協会ではこれまで、島の魅力を堪能していただくための各種クルージングを企画・運営してきましたが、今回のように、瀬戸内の領有をめぐる争いの歴史や海運による物流の仕組みに加え、内陸部の港と島の港の関係、その中における忽那水軍の位置付けなどを学術的に捉えた「瀬戸内海の島の歴史」をクルージングのテーマとして特化したことはなく、本格的な歴史クルーズを行うのは、協会としてもこれが初めて試みでした。

開催にあたり、とりあえずはこれまで蓄積してきた地域資源情報をベースに、今回改めて収集した歴史的資料をデータベースに加え、整理し直したものを配付資料とし、三人のガイドが案内や解説を行いました。まずは自らを表現し、他からの評価を受けるといふ実践を積んでみるべく、わがふるさとと海と島としまびとの暮らしをつまびらかに紐解き、参加のみなさんにありのままの姿で紹介させていただきました。先人から受け継いだしまびとの歴史は、この瀬戸内の栄枯盛衰の歴史そのものであり、そのことは後にも先にも変わることはない真実の物語です。語り部はそんな歴史のひとコマひとコマを自らのことばで紡ぎ、訪れたみなさんにご紹介していく、素朴で飾り気はないが、なにか心に残る、そんなガイドができれば、忽那の島々を訪れてくれた人々に再び足を運ばせる場所づくりができるのではないかと考えています。「各島に己が島を語れる人材を」を合言葉に、協会では来年度、完成したガイドマニュアルによる『語り部養成講座』を順次開催していきたいと考えています。

しまコン

× 婚活



でしまを笑顔に!

—らぶらぶ愛ランド作戦—

二〇一二年一月二十八日土曜日、松山市三番町六丁目の松山市男女共同参画推進センター・コムズで、婚活イベント、『婚活でしまを笑顔に!』—らぶらぶ愛ランド作戦—を開催しました。

開催に向け、参加者募集のため、中島汽船とごしまの船内と待合のほか、海の駅や農協、支所などしまびとの目につきやすい場所へのポスター掲示を行い、準備に奔走したこのイベントは、松山離島振興協会が初めて主催する結婚促進のための催しで、会場を島ではなく、あえて街なかに設定した、島の若者にとつては少しばかり勇気の要る試練の社交場となりました。

この催しは、「島の若い衆にも一人もんが多て、この先どうならや」と難儀がる声が聴かれるのに加え、「やつぱり小さい子はおかしいの」と孫をこいねがう声にも共感し、ノウハウもないままに企画したイベントでしたので、その切り盛りには、想像以上の苦労を強いられました。それでもなんとか開催にこぎつけ迎えた当日は、島の若人たちと島外の麗しき女性陣の初めての出会いの場。スタッフも固唾を呑んで見守ります。司会をお務めいただいた南海放送アナウンサーの佐伯りささんの柔らかなムードで始まったイベントは、まずはマイ・プロフィールを交換しての自己紹介タイムから。一組あたりの付与時間はたったの四分。緊張の中、島の男性陣がうまくおしゃべりできるかと内心心配していましたが、何が何かが、皆しゃべるはしゃべるは。心配は無用のようでした。十四人の女性との会話を終了した面々は、『第一印象カード』に一番のお気に入り

の女性と、その次に気に入った女性の番号をそれぞれ記入します。そして女性も同様に。カードを回収し、今回協力をいただいたえひめ結婚支援センターのスタッフの方が集計してくれます。

そして参加のみなさんは第二ステージへ。初めて着けたくらしいのエプロンを身にまとい、調理室へと移動する男性陣。睦月島の食事処『海遊亭』の親方である中尾憲次さんの調理指導の下、島料理の共同調理を体験。食材は鯛、ヒラメ、車海老にサザエ、モイカ、極めつけは坊っちゃん島あわび。そして安居島の生ひじきと至極豪華。献立のメインはヒラメのムニエル。厚く輪切りにしソテーした怒和島の新玉ねぎにムニエルの旨みがしみ込み、まさに絶品の組み合わせ。新玉ねぎはスライスし、新ひじきと和え海鮮サラダにもなります。焼き物のサザエはきれいに身、貝柱、腸に分けバター焼にして再び殻の中へ。お造りは鯛と車海老、モイカの三種盛り。ご飯は鯛と鮑の炊き込みご飯、鯛の潮汁に白菜の香の物が付きます。そして女性陣お楽しみのデザートは、興居島の山中美佳さん特製のシフォンケーキとブラウニー。美佳さんはおみやげ用にとビスコッティも作ってくれました。もともと美佳さんの専門はパンでいつも道後湯あがり朝市に出展してくれています。今回は特別にお願いした甘さ控えめの味が男性陣にも好評で、スウィーツ男子のことがどおり、ペロツとたいらげる男性の姿が目立ちました。

さて、調理の際の班分けは番号で振り分けましたが、食事の席決めは先程の第一印象カードの結果を反映。第一印象とその後

を各自確かめる時間です。おいしい食事の後には最終ラウンド。ひと言PRタイムの後、先程の要領で『また会いたい人カード』を記入、最終審判待ちます。集計の間、遅れて駆け付けた田中会長が、今回のイベントの趣旨を話します。締めくくりに女性たちに対し、「島には四つの宝がある。基幹産業であるみかん、海が育む豊富な魚介、そして色濃く残る人情、それに地域の持つ教育力だ」と説明し、「島の男どもは島で見てこそ光っている」「ぜひ、島にいる彼らの姿を見てやってほしい」と付け加えました。さあ、ほどなくして集計結果が、りささんのもとへ。皆に緊張が走ります。結果はなんと五組が成立。島にとつては1/3確率の大収穫となりました。

当日、女性一人の欠席があったものの、女性十四人、男性十五人のご対面となった協会初の婚活イベント。冒頭、イベント名を『婚活』から、島流コンパの略である『しまコン』に変更したことも、好結果につながったのかもしれない。カップルになられたみなさんのゴールインを心から祈っています。

たなかあつしさんのイラストで、島ののどかさをアピールしたイベント告知用のポスター

【婚活でしまを笑顔に!】
—らぶらぶ愛ランド作戦—

松山離島振興協会
コムズフェスティバル 赤良会館分館

松山離島の若者と島に想いのある女性との婚活イベントを開催します。
これまでになく女性と繋がったという喜び、異業種もグリーンとアップ!
なげが一人だったという喜び、このチャンスを逃してはいけません。
若いパートナーを得ることは、人生が豊かになること。
人生に転機を求めるときにこの機会をお逃ししてはいけません。

開催日: 2012/1/28 (土)	12:00~12:30 受付・開場
開催時間: 12:30~16:00	12:30~12:45 開場・観覧開始
	12:45~13:15 自己紹介タイム
	13:15~14:00 共同調理
	14:00~14:30 食事タイム
	14:30~16:00 最終審判

会場: 松山離島振興協会
松山三番町六丁目4-2-9
松山男女共同参画推進センター・コムズ
主催: 松山離島振興協会
松山中央大通673 電話 099-997-2189
松山離島振興協会 FAX 099-3519-9714
後援: 松山府庁 E-mail: www.matsuyamaifp@fnet2.ne.jp

忽那諸島関連本 続々刊行！

二〇〇八年九月、『忽那水軍の実像』を出版し、世に再び忽那氏の名を知らしめることを仕掛けた忽那祐三さんは、そのうじ名が示すとおり、忽那一族の末裔です。その祐三氏が二〇一一年五月、その続編として新たに書き下ろしたのが『梓(あずき)物語』です。

西瀬戸で隆盛を極めた忽那一族の足跡と、折々の忽那の島々の在り様とを、祐三氏独自の識見で紐解くこれら物語のおもしろ味は、読む人の心をつかんで離さぬ珠玉のストーリーとして、島を語る上でなくてはならぬ読本となっております。また『梓物語』の出版にあたっては、巻頭に田中会長が祝辞を寄せるなどのご縁もあり、松山離島振興協会の「忽那ロマン探訪事業」との連携も今後お願いしたいと思っております。



そもそも忽那諸島の本といえば、元祖はこちら、山野芳幸先生の『忽那諸島界隈はええとこぞなまし』です。草分け期の松山離島振興協会の顧問として、またその前身「みんなのまつやま夢工房」時の会長として、忽那諸島を愛し、しまびとをいつくしんでくれた先生ならではの、お人柄で、島の普遍的な魅力を語りつくしていただいた島のバイブルです。未読の方はぜひご一読を。

さて、その先生がシリーズ最新刊として今年一月に出版されたのは、『伊予節紀行は楽しいぞなまし』。松山で二百年前から歌い継がれる「伊予節」にスポットを当て、紀行物として仕立てた、まさに伊予節のバイバル・ヒットをも予感させる至極の一冊。「今なら歌詞に忽那の至宝を盛り込めた」は先生の弁。現代飯の再考もおもしろいハかも。

しまの自慢を一堂に！『農林水産まつり』／アイテムえひめ



「安居島の生ひじきです」「生ひじきはサラダで食べるとおいしいんですよ」とかなちゃん



2月18・19日の両日、第6回を数える『まつやま農林水産まつり』がアイテムえひめで盛大に開催されました。

野志市長のあいさつを合図に、大勢のお客さまをお迎えしたオープニングではまさかのトラブル。入場記念の品の無料配布をめぐり、一時騒然となる場面があり、主催者も一瞬ヒヤリとなりました。

でも気を取り直しての催しには多くの市民のみなさんが大満足の様子。やはり、おいしいものが人々の心を穏やかにさせるようです。忽那の各島から持ち込んだ海、山の幸もあつという間の売れ行きで、完売御礼の札が並びました。

毎回参加をされている安居島ひじきクラブさんのブースには、今回、かわいらしい女の子の姿が。彼女は島のおばあちゃんのお手伝いに駆け付けてくれたかなちゃん、小学4年生。エプロンと三角巾がとってもよく似合っていて、試食を勧める姿もなかなか堂に入っています。かなちゃんのお手伝いもあって、安居島特産の生ひじきは300超の売れ行き。根強いファンに支えられています。

忽那の島々からは他にも、津和地島、怒和島の元怒和地区、上怒和地区、釣島も参加しており、里島ツーリズム協議会や松山離島振興協会のブースと併せ、島ムードを満載にしていました。

【地域産業部】

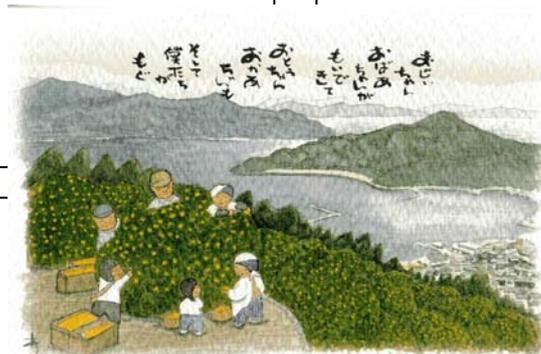
私も副実行委員長の一人として、立ち上げからその運営に関わってきた「まつやま農林水産まつり」。早いもので第6回を数えました。回を重ねるごとに出席団体が増え、全市を挙げてのイベントに成長しました。「農林水産まつり」は、多くの市民・県民が訪れる絶好の機会です。島の私たちはさらに気持ちを込め、島の産品をアピールしていかなければなりません。なにせ、“まつやま農林水産ブランド”の半分は島の産品なので、自信を持って突き進みたいと思います。

《お問い合わせ・お申し込み》

会長 田中政利

TEL.999-0524

松山は、うまいぞなもし
愛上品



【観光振興部】

島料理の共同調理体験の裏方としてスタンバった婚活イベント。コムズの立派な調理室で準備に奔走したが、本番はなかなか予定どおりにはいかず、時間もおしてしまって、片付けに大わらわ。スタッフのみなさんは、食事も食べたやら食べずやらの始末。本当にごくろうさまでした。

でも、その甲斐あつての5組ものカップル成立に、そんな苦勞をどこへやら。「終わり良ければすべて良し」の言葉のように、さわやかな気持ちの一日でした。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 田中 治

TEL.998-0243



【しまづくり部】

『婚活』の言葉を急遽「しまコン(=島流コンパ)」に切り替え実施したイベントは成功裏に終了し、主催した私たちも今、そっと胸をなでおろしています。会長に代わり、冒頭、島の魅力を紹介するあいさつをした私ですが、内心は「どれだけのカップルが成立するのか」と、ヒヤヒヤものでした。でも、ふたを開けてびっくり。「男性陣も結構しゃべるじゃないの」と…。「あー、心配して損した」って感じでした。

今、巷では、『まちコン』が大流行りとか。「『しまコン』の方がもっとおもしろいよ」って、みなさん、大きな声で宣伝してください。だって、島には数えきれないほどの魅力が詰まっているんですから。

《お問い合わせ・お申し込み》

顧問 山田 寿

TEL.964-4502



会報のバックナンバーはホームページでどうぞ！

<http://island-matsuyama.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆